

日々 往来

福永 憲高



受験シーズ
ン真っ盛りだ
が、先月の大
学入試センタ
ー試験に鳥取

県に該当するものを選ぶ問題
(地理B、第3問・問5)が出
題されている。都道府県間の人
口移動に関するもので、東京、
大阪、宮城、岡山、秋田の各都
府県と鳥取県それぞれの間の人
口の転出数・転入数から鳥取県
に該当するものを選ぶ問題だ。
鳥取県民として間違っわけに

鳥取県に該当するものを選べ

はいかないと思ひ、頑張つて解
いてみた。ある予備校の解説を
基に答え合わせしたら正解だ
ったが、解説が少し気になった。
「日本国内の人口移動に関する
統計における県名の判別。統計
の読み取りがやや煩雑」とある
がここまでいいとして、その
あとに「転出入の傾向とは関係
なく人口規模だけでも判断でき
る」と続く。要は数字が一番小
さいのを選べばそれが鳥取県だ
というのである。

受験テクニック的にはそうか
もしれないが、これでは、人口
流出に頭を悩ませ、流入策に知
恵を絞る鳥取県の努力が無視さ
れているような気がする。

この問題は移住者数に関する
問題だが、最近、「関係人口」
という言葉をよく耳にする。関
係人口とは、「移住した定住
人口でもなく、観光に来た交流
人口でもない、地域や地域の人
々と多様に関わる人々のこと」
で地域活性化に一定の役割を担
う地域外の人たちを指す。
組織や地域に変革をもたらす
のは「若者、ばか者、よそ者」
念にとらわれない考え方、外の
世界から相対的にみる目が必要
で、そのためにも「関係人口」
の拡大は必要だ。

全国の受験生には、試験には
出ないかもしれないがこうした
各地の努力にも目を向けてもら
いたい。予備校で「鳥取県は人
口が一番少ないことだけ覚えて
おけば大丈夫」なんて授業が行
われていないことを祈る。
(日本銀行鳥取事務所長)